



医療経営士ニュース | これからの医療現場を担う経営人材のための機関紙

MMS NEWS

2021 12 月号
Vol.130
毎月1回発行(通巻130号)
編集:日本医療企画

一般社団法人日本医療経営実践協会 〒104-0032 東京都中央区八丁堀三丁目20番5号 S-GATE八丁堀9F TEL.03-3553-2906 <http://www.JMMPA.jp/>

第10回「全国医療経営士実践研究大会」WEB大会
初の完全WEB開催!! 開催期間中に1000人が視聴

医療経営士の英知を結集し 新時代のマネジメントを!

一般社団法人日本医療経営実践協会は11月1日(月)から30日(金)までの1か月間にわたり、第10回「全国医療経営士実践研究大会」WEB大会を開催した。大会テーマは「医療経営士が挑む『ポストコロナ時代の医療改革』——今こそ英知を結集し、マネジメントを進化させよう!」。中央大学大学院戦略経営研究科教授で、当協会参与の真野俊樹氏が大会運営委員長を務め、1000人が視聴した。なお、各プログラムの視聴期間は好評につき2022年1月31日(月)まで延長。新規の参加登録も受け付けている。

目指すべき医療の実現に向けて
20年後の変化を先読みして対応しよう

初の完全WEB開催となった今大会は、事前収録したプログラムの動画を特設サイトで配信するアーカイブ形式を基本に行われた。基調対談「ポストコロナ時代の医療改革」では、大

会運営委員長の真野俊樹氏をホスト役に、厚生労働省参与(初代医務技監)の鈴木康裕氏をお迎えし、医療改革の方向性について議論を深めた。鈴木氏はコロナ禍で起きた病床逼迫の要因として、病床当たりの医療従事者が少ないこと、一般医療への影響を極力抑えたことの2つを挙げ、「5年から10年に1回はパンデミックが起こり得ることを前

提に、有事になっても一定の強靭性が発揮できる医療体制を考える必要がある」と指摘した。その後、鈴木氏はコロナ専門病院やワクワン開発のあり方、オンライン診療の活用など幅広いテーマに言及。わが国が目指すべき医療については、「日本の人口構造の変化を見ると2040年がターニングポイント。各病院で強みや弱みを見極めて、20年後の変化を先読みして対応していくことが大事」と呼びかけた。

医療専門職が自然と行動変容を
起こせるようなマネジメントに期待

トークセッション座談会「医療の新潮流と進化するマネジメント——改革の起爆剤はDX人材? 患者本位の医療はどうなるのか!」では、ハイズ株式会



基調対談の鈴木康裕氏(左)と真野俊樹氏

トークセッション座談会の座長と出演者。上段左から斐英洙氏、佐々木淳氏、武内和久氏。下段左から藤田哲朗氏、渡辺英克氏

2022 | 2 | 1 火
~ 2 | 28 月
WEBオンデマンド配信

一般社団法人日本医療経営実践協会 主催
令和4年新春特別講演会
私の仕事術

講師 榊原記念病院副院長 高橋幸宏

参加費 医療経営士(会員)……無料

たかはし・ゆきひろ ●昭和31年宮崎県生まれ。56年熊本大学医学部卒業後、心臓外科の世界的権威と呼ばれた榊原氏が設立した榊原記念病院への入職を希望するも、新米はいらないと断られ、熊本のもみぢ病院で2年間初期研修。58年榊原記念病院に研修医として採用。年間約300例もの心臓血管手術を行ってきた。著書に『7000人の子の命を救った心臓外科医が教える仕事の流儀』(致知出版社)。



スペシャルトークセッションの座長と出演者。上段左から石井富美氏、網代祐介氏、出雲貴文氏。下段左から長英一郎氏、金城悠貴氏

社代表取締役社長の裴英洙氏が座長を務め、医療法人社団悠翔会理事長の佐々木淳氏、BLOOMIN、JAPAN株式会社代表取締役の武内和久氏、医療法人社団藤聖会富山西総合病院事務長の藤田哲朗氏、みずほ証券株式会社エグゼイティブ調査部長の渡辺英克氏が出演。コロナ禍で浮き彫りになった医療の課題、患者視点の医療DX、コロナ禍における医療経営などについて討論した。

オンライン診療ならではのスタイルをつくらなければうまくいかない。医療DXの実現に向けて技術的な面以上に重要なのはスタッフ一人ひとりに対する動機づけである」と述べた。一方、佐々木氏はこれからの医療経営士としての役割について、「医療機関を運営する医師は患者価値の向上と組織の持続

**ライブ配信で医療現場の課題を共有
4人の医療経営士がアドバイス**

11月11日(木)には、唯一のライブ配信プログラムであるスペシャルトークセッション「医療経営士思考塾 医療経営に関する悩みを参加者全員で考えよう！」が行われた(翌日以降アーカイブ配信)。座長は多摩大学医療・介護ソリューション研究所所長の石井富美氏。医療経営士を代表して社会医療法人社団光仁会第一病院医療福祉連携室室長

可能性の両立に苦慮している。やりたい医療を提供しているつもりが、いつの間にか理想の医療ができていて経営も成り立っているような状態が理想的で、医療経営士は医療専門職が自然と行動変容を起こせるようなお膳立てができる人材であってほしい」と期待を寄せた。

の網代祐介氏、医療法人徳洲会千葉西総合病院薬剤科薬剤科長の出雲貴文氏、東日本税理士法人代表社員・所長の長英一郎氏、社会福祉法人恩賜財団済生会支部神奈川県済生会横浜市東部病院医事企画室長の金城悠貴氏が出演した。

セッションは視聴者から寄せられたさまざまな質問に出演者が回答するかたちで進行。「病院経営を考えると一歩大げなことは何ですか?」という質問に対し4人は、「医療経営士はパラレルキャリア。自分の本業と経営の両方をバランスよく学んでいってほしい(網代氏)」、「必要なことを考え、それを実行できる力をつける(出雲氏)」、「情報を早く集めて、早く実行するスピード感を持つ(長氏)」、「地域におけ

る病院の役割、組織における自分の役割を見失わないことが大切。医療経営士に

**演題発表では12人が実践活動を報告
審査の結果、6人が各賞を受賞!**

医療経営士による演題発表には、12人の医療経営士が挑戦した(表)。大会特設サイトでは感想掲示板を通して視聴者との質疑応答も行われた。12月2日(木)には審査委員長の吉長成恭氏(広島経済大学特別客員教授、当協会参与)らによる審査委員会が開催され、審査の結果、6人の受賞者が決定した。このうち、審査委員奨励賞に輝いた中村久美氏は外来がん化学療法を適切に行うために開始した薬業連携の強化に関する先進的な取り組みを報告。福田徹氏は経営人材の育成を目的に発足した「八事日赤経営ゼミ」の活動内容を紹介し、「自院で教育プログラムをつくることで自ら学び、成長できる組織となる」と話した。演題発表者は表彰状が贈呈される。

は医療界全体のことも考えてほしい(金城氏)とアドバイスを送った。

について、さまざまな視点から考察した。

なお、2022年1月発行予定の会員情報誌「理論と実践第43号」では、大会の特集記事を掲載。あわせてご覧いただきたい。

表 演題発表者一覧と受賞結果

賞	氏名	所属・役職	演題タイトル
---	金子 瑛氏	日本赤十字社福島赤十字病院事務部 経営企画課主事	コロナ禍での人材育成と今後の展望
---	豊島 久雄氏	日本経済大学大学院ファーマシー マネジメント研究所研究員	DX時代の患者向けの医薬品情報について ~炎症性腸疾患にフォーカスして~
ユニーク賞	鶴見 怜央氏	社会福祉法人恩賜財団済生会支部 神奈川県済生会横浜市東部病院 事務部医療支援課医事企画室主事	施設基準のベンチマークによる評価と 新規届出の取組み
---	中神 勇輝氏	医療法人真生会真生会富山病院 経営企画部企画課主任	経営会合とファシリテーション~経営会合の ありかたを探る紆余曲折の6年間とこれから~
---	石井 義輝氏	医療法人真鶴会小倉第一病院 形成外科部長	ポストコロナ時代の地域医療提供体制構築に 関する提言
リーダー シップ賞	宮沢 圭一氏	社会医療法人加納岩理事・ 財団事務局長兼事務本部長	ポストコロナで戦える事務部門へ ~新米事務局長の事務改革~
審査委員 奨励賞	中村 久美氏	社会医療法人財団慈泉会相澤病院 薬剤センター課長	新設された「連携充実加算」を薬剤師・ 医療経営士両視点で意義ある連携強化と 薬剤師力向上に活かす
期待賞	岡本 健太氏	社会医療法人敬愛会中頭病院法人 本部兼用度課次長	マネジメントの原点は、現場から ~現場の看護師、最強説~
---	辻川 幸智子氏	医療法人徳洲会岸和田徳洲会病院 総務課副主任	重症拠点病院から見たコロナ対応 ~コロナ禍に物思い~
審査委員 奨励賞	福田 徹氏	日本赤十字社愛知医療センター 名古屋第二病院救急科医長	八事日赤における医療経営人材育成の 取り組み
---	末吉 敦氏	医療法人徳洲会宇治徳洲会病院 病院長	医療を制限しない当院のCOVID19対応と その後に向けて
インパクト賞	加藤 彩芳氏	医療法人深仁会札幌西門山病院 地域連携推進室/在宅ケアセンター	在宅との連携における広報の効果



演題発表の受賞者。上段左から鶴見怜央氏、宮沢圭一氏、中村久美氏。下段左から岡本健太氏、福田徹氏、加藤彩芳氏

全国の介護福祉経営士がオンラインで討論！ 介護経営の実践者から経営的思考を学ぶ

一般社団法人日本介護福祉経営人材教育協会は11月16日(火)、「介護福祉経営士 全国会議2021」をWEBライブ配信で開催した(開催後11月30日[火]までアーカイブ配信)。テーマは「ポストコロナ時代の高齢者ケアと介護福祉経営」。当日は介護福祉経営士だけでなく、医療経営士も参加した。

コロナによる環境変化を
新たな事業展開につなげる

「介護福祉経営士全国会議2021」は、ふくしのよろずや神内商店合同会社代表の神内秀之介氏(介護福祉経営士1級)がファシリテーターを務め、サニーウインググループ代表の皆川敬氏(同1級)、社会福祉法人小田原福祉会理事の井口健一郎氏(同2級)、Plus Partners株式会社代表取締役社長の溝口寛之氏(同2級)、株式会社いちまん代表取締役の上原亮氏(同1級)がパネリストとして出演。参加者との質疑応答を交えながら進化した。会議ではまず、パネリストがコロナ対応の事例を紹介。「デイサービスの機会が制限されるなか、AI搭載型の歩行リハビリロボットを導入し、利用者一人ひとりの特性に合った機能訓練を行えるようにした」(溝口氏)、「外出が減ることによるストレスや認知機能低下への対策として移動販売や配食サービス、買い物代行をはじめた」(上原氏)など、コロナによる環境変化を新たな事業展開につなげたエピソードを披露した。続いて、議題は「DXに関する取り組み」に移った。井口氏は「研修動画はYou

Tube、受講の確認はGoogleフォームを利用するなど、使いやすくコストがかからないツールを選ぶようにしている。ICTの活用は楽になることが重要で、職員の負担が増えるのは元も子もない」と述べた。これに対し皆川氏は「職員同士が使用するビジネスチャットなどの導入が進んでいる一方、一部の施設では対話推進委員を設け、部署の異なる職員同士が意見交換できる環境づくりもしている。実験的な試みだが、効果も見えてきた」と語り、コロナ禍を経て人と人とのリアルな

交流がより重要になっていくことを指摘した。

自らの力でイノベーションを起こせる人材へ

会議では、その他にも「事業計画の展望」「人事戦略」「介護・医療連携」「これからの介護福祉経営士に求められる役割」など、多様なテーマについて議論。最後に神内氏が「コロナ禍のような環境の変化に巻き込まれたいとき、守るべきことは守り、変えるべきことは変える。自らイノベーションを起こしていくことの重要性を改めて認識できた」と総括した。

当日は介護施設・居住系サービス事業者や介護関連企業の勤務者、医療機関の職員などが参加。最前線で活躍する実践者の思考プロセスを知ることのできる貴重な機会となった。



「介護福祉経営士 全国会議2021」の出演者。上段左から井口氏、神内氏、溝口氏。下段左から皆川氏、上原氏

TOPICS

「医療経営に関する研究助成」特設サイトを開設 第3回懸賞論文受賞記念講演などを公開中！

当協会ホームページでは、「医療経営に関する研究助成」特設サイトを開設し、第3回(2021年度)懸賞論文「日本医療経営実践賞」受賞記念講演と第4回(2021年度)「医療経営に関する研究助成」指定課題研究部門中間報告会の動画を公開している。講演者・報告者とテーマは下表のとおり。

第3回懸賞論文では、熊谷有祐氏が賞創設以来初めて最優秀賞に選出され、鈴木大輔氏(共同執筆1名)は2年連続の優秀賞受賞となった。一方、中間報告会を終えた2人は、2022年中に最終報告を兼ねた研究発表を行う。

第3回(2021年度)懸賞論文「日本医療経営実践賞」受賞記念講演

講演者	テーマ
熊谷有祐氏 (社会福祉法人恩賜財団済生会熊本病院 医療支援部救命救急支援室、 医療経営士1級、医療経営指導士)	過去の救急患者動向を用いた 将来の救急患者数の推計について
鈴木大輔氏 (公益財団法人慈愛会今村総合病院 総務課長、医療経営士2級)	有事下でもゆるぎない病院経営を目指して —COVID-19禍における 「病院経営のBCP」への一考察—

第4回(2021年度)「医療経営に関する研究助成」指定課題研究部門中間報告会

報告者	テーマ
シュナック千賀子氏 (スリーロック株式会社取締役CFO、 医療経営士2級)	乳がん術後連携パスの活用による 患者QOLの改善効果と クリニックの経営的ポテンシャル
豊島久雄氏 (日本経済大学大学院 ファーマシーマネジメント研究所研究員、 医療経営士3級)	医療情報の現状と最適化のために 必要なデジタル課題についての 調査研究(医療経営改善の観点から)

日本ヘルスケア経営学院 WEB講座(実践研究講座)

実践
研究!

収益予算のモニタリングと バリエーション対応の基本

好評
配信中!

講座概要



● 講師：
小島勇人氏
(社会福祉法人恩賜財団済生会
横浜市南部病院人事課課長補佐、
人材開発室長、職員健康管理室長/
医療経営士3級)

● 講座内容：①収益予算のモニタリング
②バリエーション分析(差異分析)
③対応と予算修正
④本講座のまとめ

● 講義時間：全64分
● 受講料(税込)：
医療経営士…3,300円
一般…4,400円

